

## はじめに

このたび2018年度の情報化調査の結果をとりまとめました「LS研ICT白書」を刊行いたしましたので、ご報告申し上げます。

情報化調査は、LS研が1978年に設立されて以来、研究活動、セミナー、各種フォーラムや交流会などと並び、毎年実施しており、今年で40回目を迎えます。今回は、167会員から回答をいただきました。ご協力に改めて御礼申し上げます。

本調査では「会員企業におけるICT活用に関する調査」を目的に、従来からの調査項目による定点観測項目、および、今年度は40回目の節目の年として、情報システム、および、情報システム部門の今後の10年を考えていくための素材を皆様にご提供することを目的として、中長期にわたる技術、情報システム部門の規模やあり方についての見通しについて調査を行いました。

国内では、日本で行われるオリンピックとしては22年ぶり、夏期大会としては、1964年以来実に56年ぶりとなる2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けての準備が本格化しつつあります。その他にもスポーツの分野では2019年にラグビーワールドカップが開催されるなど、さまざまなイベントが目白押しです。経済の面では、2019年10月には消費税率改定も予定されています。

一方、2019年度は天皇陛下が4月30日に退位され、皇太子さまが翌5月1日に即位されることが正式に決まりました。この日程で平成が終わり、新しい時代が始まります。

このような話題の一方、今年9月に政府から発表されたデジタルトランスフォーメーション(DX)レポートでは、既存システムのサイロ化・過剰なカスタマイズなどにより、複雑化・ブラックボックス化し、DXの阻害要因となってしまうことが指摘されています。このままでは2025年以降、最大12兆円/年の経済損失、IT人材不足が43万人まで拡大するだろうとの予測が発表され、国としても既存システムの刷新を要請するような流れとなりつつあります。

このように情報システム部門はこれまで以上に大きな責任を背負うことになっていくであろうと思われます。そこで本号では、情報システム部門が今後、短期・中長期にわたって取り組まなくてはならない事項に焦点をあて、会員企業へのアンケートという形で可視化し、その傾向をいち早く掴み取りたいと考えております。会員の皆様におかれましては、今後の情報システム部門のあり方を考えるための一助としていただければ幸いです。

なお、本白書は会員向け情報提供を目的として、会員の皆様に限定して配布しております。

LS研では2014年度より「Challenging Innovation」をスローガンに掲げ、最先端ICTの利活用による経営革新へ貢献するための活動を展開しております。そして会員企業の成長や個人の成長を目指します。それとともに情報化調査も会員企業の皆様とともに変革していかなくてはならないと考えております。今後とも、皆様のご協力を得て情報化の発展に役立つ情報を提供すべく努力してまいりますので、内容に関する忌憚のないご意見・ご感想をお寄せいただきたく存じます。

最後に、会員各位の益々のご発展をお祈り申し上げます。

2019年1月

FUJITSUファミリー会LS研究委員会

幹事長 占部 真純

株式会社日本アクセス 常務執行役員